

キャンパス点描

■ 湯浅年子生誕100年記念企画実行委員会の活動



今年が湯浅年子生誕100年にあたります。「湯浅年子生誕100年記念企画実行委員会」は、年子の生誕100年を祝い、これからの若い世代として彼女の精神を受け継いでゆくことを目的とし設立された、学生主体の有志団体です。

日本女性初の国際的物理学者である湯浅年子（1909–1980）は、お茶の水女子大学の大先輩です。本学の発足に携わり、日本における女性教育の発展に大いに尽力しました。彼女は男女差別の厳しい日本において物理学を学び、第二次大戦の最中、遠い外国の地で研究の道を切り開きました。その後は、人生の大半をフランスでの研究活動に費やし、晩年には原子核実験における日仏の公的な共同研究の実施に尽力して、臨終の間際まで続いた奮闘の末にその実現を叶えています。その一方で、美しい絵画や詩歌を数多く残しています。その生き方には、私たちが学べるところが多くあるに違いありません。

これまでの活動

記念イベントのプレイベントを7月29日に開催しました。第一部では、学生による年子の年表・スライド上映をおこない、年子の人生や、そのスケッチ、詩歌などを紹介しました。第二部では、年子の後輩の山崎美和恵先生をお招きし、年子の研究活動や多彩なエピソードについて講演していただきました。イベント後のアンケートでは「湯浅先生のことを多面的に知ることができた」、「湯浅先生に関するイメージが広がった」等、参加された方々に年子について興味を持っていただくことができました。学生による司会やスライド上映も大変よい評判でした。

また、9月26日におこなわれた、「湯浅年子生誕百年記念メモリアル・カンファレンス」（湯浅年子生誕百年記念メモリアル・カンファレンス主催）に参加し、プレイベントで好評だった年表とスライドを上映しました。このイベントでは、年子の師であるフレデリック・ジョリオ＝キュリー教授の娘で原子核物理学者のエレーヌ・ランジュバン＝ジョリオ教授が来日し、年子とキュリー



家の関わりについて講演されました。また年子を直接知る方々によるリレートークがあり、先生の人柄がさまざまな目線から語られました。

徽音祭にて生誕100年記念イベントをおこないます

『21世紀を担う若者たちへのメッセージ—湯浅年子から若い世代へ—』と題したイベントをおこないます。第一部「年子に迫れ!」では、年子の若い時代の壮絶なエピソードや、彼女の絵画等から、年子とはいったいどのような人物だったのかに迫ります。

第二部「年子に続け!」では、科学者として国際的に活躍されているお茶大の先輩方や、湯浅年子奨学金を獲得した方々にインタビューをします。同時に、年子に関する貴重な資料、パネル展示もおこないます。イベントの後に懇親会も予定しています。

日時: 11月8日(日) 14:00~17:30 (開場13:00)

場所: お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科・全学共用研究棟 6階大会議室

主催: 湯浅年子生誕100年記念企画実行委員会

後援: お茶の水女子大学理学部、お茶の水女子大学理学部物理学教室、お茶の水女子大学ジェンダー研究センター

■ 2009年度グッドデザイン賞を受賞

ユビキタスコンピューティング実験住宅“Ocha House”が 2009年度グッドデザイン賞（生活領域／戸建住宅・集合住宅）を受賞

Ocha House（お茶の水女子大学ユビキタスコンピューティング実験住宅）が、グッドデザイン賞（生活領域／戸建住宅・集合住宅）を受賞しました。グッドデザイン賞は、財団法人日本産業デザイン振興会が主催する日本で唯一の総合的なデザイン評価・推奨制度で、世界でも有数の歴史と実施規模を誇るものです。

Ocha House は、本学大学院人間文化創成科学研究科椎尾一郎教授、太田裕治准教授、元岡展久准教授らが中心となって取り組んでいる「生活者の視点を重視したユビキタスコンピューティング住宅の研究」のなかで計画された住宅です。ユビキタスコンピューティングの利用を実証するための実験住宅として、本学小石川地区に2009年3月に完成しました。設計は本学元岡展久准教授と河野泰治アトリエとの共同でなされました。Ocha House は、生活者の視点から生活にユビキタスコンピュータを取り入れることを試みるもので、こうした実験住宅の建設は、国内の大学では初の試みです。

Ocha House では、生活スタイルに応じてコンピュータ機器を自由に住宅に取り入れるという、情報技術と住宅の新しい関わり方を提案しています。技術と生活を結びつけるため、住宅の自由度を高める「パネルフレー



ム構法」を開発し、シンプルで一体的な空間を実現しています。間伐材を利用した「パネルフレーム構法」は、森林保全や、建物の長寿命化においても有効な新しい構法です。

審査員からは、「国産材を使ったパネルフレーム構造によって、開放的でフレキシブルな空間をつくり出している。屋根と外壁をフレームから浮かせたディテールも興味深い」との評価をいただきました。

Ocha House の概要はこちらのHPをご覧ください <http://ochahouse.com/>

■ 馬場幸栄さん（比較社会文化学専攻・文化マネジメント論）が 2009年度グッドデザイン賞（ネットワーク領域／デジタルコンテンツ）を受賞

馬場幸栄さんがディレクションと基本設計を担当した『実業史錦絵絵引』というデジタルコンテンツが、グッドデザイン賞（ネットワーク領域／デジタルコンテンツ）を受賞しました。

「錦絵を使って、実業の歴史をビジュアルに楽しく学べるオンライン・コンテンツを作ってほしい」という依頼を財団法人渋沢栄一記念財団実業史研究情報センターから受けた馬場さんは、ディレクター兼設計者としてプロジェクトに参加し、国立情報学研究所連想情報学研究開発センターと特定非営利活動法人連想出版の技術協力を得て、『実業史錦絵絵引』という新しいウェブサイトおよびデータベースを開発しました。

2009年7月から一般公開されている『実業史錦絵絵引』は、Flash を用いた直観的インターフェースを採用しており、スクリーン上の錦絵の一部をクリックしたり、あるいは検索画面で文字列を入力したりすることによって、明治期の職業・道具・建築・衣装・風俗などに関するさまざまな歴史的・図像学的情報を言葉と図像の双方から学べるようになっています。

審査員からは、(錦絵を)「本来のニュースメディアとして、歴史データとして読むために考えられた工夫やインターフェースが良い」との評価をいただきました。

実業史錦絵絵引の概要はこちらのHPをご覧ください <http://rensou.info/ebiki/>
実業史錦絵絵引はこちらのHPをご覧ください <http://ebiki.jp/>

■ 2009オープンキャンパスを開催



7月19日と20日にオープンキャンパスを開催しました。

猛暑にもかかわらず、多くの受験生やご家族の方々にご参加いただき、19日の生活科学部（午前）・理学部（午後）には約

2,400名、20日の文教育学部には約2,000名の来場者がありました。

羽入佐和子学長から「躍進するお茶大」の紹介と受験生へのメッセージが送られたほか、各学部の教員や在学生によるカリキュラム説明会や模擬講義、入試や大学生活に関する個別相談会がおこなわれるなど、熱気に満ちた2日間となりました。

キャンパス点描